

## マタイによる福音書

### 2 章

1 エロデスと申す国司<sup>もう こくし</sup>ゼルザレン<sup>おさ</sup>を治めらるる時代<sup>じだい</sup>に、ベツレンにおいて、ゼズス<sup>たんじょう</sup>誕生<sup>たま</sup>なされ給えば、即ち東国<sup>すなわ とうごく</sup>より三人の国司<sup>さんになん こくし</sup>、ゼルザレンへ来たられ、

2 「ユデヨ<sup>ていおう</sup>の帝王<sup>い か</sup>は如何なるところに生まれ給うぞ。東<sup>う</sup>に現れける星<sup>たも ひがし</sup>のしを<sup>あらわ</sup>見るによって、<sup>ほし</sup>拝み奉らんため<sup>おが たてまつ</sup>に来る<sup>き</sup>」と申されければ、

3 エロデスを初めとしてこれを聞きけるゼルザレン<sup>はじ</sup>の者ども<sup>き</sup>、大きに仰天<sup>もの おお ぎょうてん</sup>しけるなり。

4 その時<sup>とき</sup>、サセルダウテ<sup>つかさ</sup>の司<sup>と</sup>、スキリバ<sup>よ あつ</sup>を呼び集めて、「キリシトはいずくに誕生<sup>たんじょう</sup>あるべきぞ」と問われければ、

5 「ユデアのベツレンなるべし」と、

6 「その故<sup>ゆえ</sup>は、ポロヘエタ、『いかに、<sup>くに</sup>ユデアの国のベツレン、ユデアの<sup>こおり なか ちい</sup>郡の中に小さきにあらず、<sup>なんじ</sup>汝よりイスラエルの人数<sup>にんじゆ</sup>を計らい給うべき大將<sup>はか たも</sup>出で給うべし』と書きおかれける」と答<sup>こた</sup>えけるなり。

7 されば、エロデスひそかに東国<sup>とうごく</sup>の国司<sup>こくし</sup>を請<sup>しょう</sup>じ、星<sup>ほし</sup>のしるし<sup>み い</sup>を見出だされける時分<sup>じぶん</sup>を悉く尋ね、

1 イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、

2 言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」

3 これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。

4 王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。

5 彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。

6 『ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』

7 そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時

8 「されば、疾く御出であつて、若君  
を尋ねあい給わば、知らせ給え。我も  
参て拝み申すべし」とて、バツレンへ  
遣わし申さるなり。

9 三人の国司、ゼルザレンを出で給  
えば、東国より見えたる星、若君のま  
します家まで導きて、留まりければ、

10 三人の国司、かの星を見て大きに  
喜ばれ、

11 即ち御産屋に参り給ひ、若君と  
御母サンタ・マリヤを見つけ奉られ、  
各々ひれ伏して、礼拝いたされ、宝の  
箱を開き、黄金、ミルラ、エンセンゾ  
この三種を捧げ奉るなり。

12 然れば、夢中に「エロデスに帰る  
べからず」との御告げを蒙むられ、別  
の道より本国に帰られけるなり。

期を確かめた。

8 そして、「行って、その子のことを  
詳しく調べ、見つかったら知らせてく  
れ。わたしも行って拝もう」と言って  
バツレヘムへ送り出した。

9 彼らが王の言葉を聞いて出かける  
と、東方で見た星が先立って進み、つ  
いに幼子のいる場所の上に止まった。

10 学者たちはその星を見て喜びにあ  
ふれた。

11 家に入ってみると、幼子は母マリ  
アと共におられた。彼らはひれ伏して  
幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、  
乳香、没薬を贈り物として献げた。

12 ところが、「ヘロデのところへ帰る  
な」と夢でお告げがあったので、別の  
道を通して自分たちの国へ帰って行っ  
た。

Epiphania Dominge (御公現の祝日) p 10

1 Herodes to mosu cocuxi (cunino ccucassa) Jerusalem vo vosame-raruru jiday ni, Betlem ni uoyte, JESVS tanjo nasare-tamaye ba, sunauachi tōgocu (figaxi) yori sann̄ no cocuxi Jerusalem ye quitarare, 2 "Judeo no teyvō ua ycanaru tokoro ni vmare-tamo zo? Figaxi ni aravare-queru foxi no xirube vo miru ni yotte, vogami-tatemaccuran tame ni quitaru." to mosare-quere ba, 3 Herodes vo fajime toxite, core vo quiqui-queru Jerusalem no mono-domo vōquini \*guiōtem xiqueru nari. 4 Sono toqui sacerdote no ccucassa, scribe vo yobi-accumete (xojite), "Chr'o va izucu ni tanjo arubequi zo?" to touare-quere ba, 5 "Judea no Betlem naru bexi" to, 6 "sono yuye ua, profeta 'Ycani, Judea no cuni no Betlem, Judea no covori no naca ni (gun no nacani) chijsaqui ni arazu, nāji yorj Israel (izzurayeru) no n̄ju vo facaray-tamo bequi taixo ide-tamo bexi' to caqui-vocare-queru" to cotaye-queru nari. 7 Sareba, Herodes fisoca ni (xinobite) tōgocu no cocuxi vo xōji, foxi no \*xirusxi vo miidasare-queru \*jebun vo cotogotoqu tazune, 8 "Sareba tocu (fayo) von-ydeatte, vacaguimi vo tazune ay-tamaua ba, xiraxe tamaye. Vare mo mayte vogami-mosu bexi" tote, Betlem ye ccucaxi-mosaruru nari. 9 Sannin no cocuxi Jerusalem vo ide-tamaye ba, tōgocu yori miyetaru foxi uacaguimi no maximasu vye made michibiquite, todomari-quereba,

10 sannin no cocuxi cano foxi vo mite vōquini yorocobare, 11 sunauachi go-sanya (sanjo, co uo vnda tocoro) ni mayri-tamay, vacaguimi to, von-faua Santa Maria vo miccuque-tatemaccurare, vono-vono firefixite (chi ny tauore), rayfay itasare, tacara no faco (fōqiō) vo firaqui, vōgon (cogane), mirra, encenso (niuco); cono sanxu vo sasangue-tatemaccuru nari. 12 Xicareba muchu (yume no vchi) ni "Herodes ni cayeru becarazu" tono von-ccungue vo cōmurare, bechi no michi yori fongocu ni cayerare-queru nari.

1 sannī=sannin; 3 \*guiōtem=guiōten; 4 Chr'o=Christo; 6 nāji=nanji; nīju=ninju; 7 \*xirusxi=xiruxi; \*jebun=jibun;

固有名詞の表記は、『キリシタン研究』（以後『キ研』）に従った。ゼズス、ゼルザレン、ユデアなどは、いずれもポルトガル語読み。ゼズス、ゼルザレンなどの「ゼ」は、16世紀の日本語では、[dʒe]と発音されていた。

1 エロデス：ローマ字表記では Herodes となっているが、ポルトガル語では h は常に無音であり、「エロデス」または「イエロデス」と発音される。

三人の国司：原典には、三人という記録は一切ない。さらに、聖書のマギは「占星術師」と考えられ、一般に「博士」と翻訳されるが、中世には、東方から来たのは「王」とであるという伝承があり（『黄金伝説』などによる）、英語でも King と翻訳されることがある。有名な We Three Kings of Orient are という賛美歌がある。この翻訳が一種の伝承をも含んでいることを示す。

ベツレン：（葡 Belem、伯 Bethlehem）、16世紀のポルトガル語は、本国ポルトガルよりも今のブラジルに残っている場合がある。言葉は、その本国から別れたところで、より保守的に古い形を残すことがある。英語も、アメリカの方に16世紀の英語が残っている。

2 帝王：「国王、または皇帝」（『日葡』）

4 サセルダウテ：（葡 sacerdote）「祭司」。

スキリバ：「（律法の）学者」（葡 escriba、羅 scriba）、元来は「書記」の意。

6 ボロヘエタ：「預言者」（葡 profeta、伯、羅 propheta）。16世紀の日本語では八行は [ϕ] 音で発音されていた。したがって、ボロヘエタは [poroϕe:ta] と発音されていた。

いかに：「もしもし、これは呼格の助辞である」（日葡）、とし、「・・アルヴァレスラテン文典において、ラテン語の名詞の呼格、o Domimni（おお、神よ）に、日本語'主'あるいは、'いかに'主を対応させている・・」という注が付けられている。従って、「いかに、<sup>くに</sup>ユデアの国のベツレン」は、「<sup>くに</sup>ユデアの国のベツレンよ」の意。ロドリゲス参照。

郡：ローマ字 covori、元来は「こほり（cofori）」であるが、ワ行音に変化したことを表している。さらに長音に変化する。『日葡』には couori と cōri の2種の表記が示されている。

汝：ローマ字 nanji、正式には nanji となるはずであるが（『日葡』では nangi）、「じ」と「ぢ」の発音が混用されている。

人数：ローマ字表記は ninju。「大勢の人々、軍勢」（『日葡』）。ザ行の発音については「ゼ」は口蓋化した [dʒe] と発音されるが、「ズ」は zu 表記され、[dʒu] と発音されることはない。したがって、この場合の発音は「ニンジュ」である。

計らい給う：「管轄支配する」（『日葡』）の意。

尋ね：ローマ字 tazune、正式には tazzune となるはずであるが（『日葡』では tazzune）、「ず」と「づ」は混用。

7 時分： ローマ字 jebun。『日葡』に jebun はないので、jibun の誤記としたが、後にも現れる。当時の発音の可能性もある。

10 産屋： 「お産をする家、あるいは子の生まれる家、一般に Gosanya と言ひ、貴人について用いる」(『日葡』)

11 御母： ローマ字表記で faua とある。ハ行音は [ɸ] であることは、6 節に述べたが、この場合は二番目の「ハ」は「ワ」と発音されていた [ɸawa] 可能性がある。『日葡』にも fafa, faua の両方の見出しがある。二拍以後のハ行が「ワ行音」に変わることは多い。「ほほ」(ほを→ほお)。一旦、このように変化したものが、いわゆる綴字発音の影響で再び「ハ行音」に戻っていることがあるが、「はは」はその一つ。「頬」も「ほほ」と発音されることがある。

サンタ・マリア： 原典には「サンタ」に当たる言葉はない。

ミルラ： (葡 mirra)「没薬、ミルラ」。アラビアに起源を持つ語で、日本語にはミイラという外来語で表れる。おそらく、ミイラに塗る没薬との混同から生じたものであろう。

エンセンゾ： 「乳香」、(葡 incenso, 羅 incensum, 英 insence) は単に「香、香料」の意 (AV は frankinsence)。原典では、乳香と没薬は順序が逆。

捧げ： ローマ字 sasangue, [g] の前の鼻音付加。

12 御告げ： ローマ字 von-ccungue, [g] の前の鼻音付加。

別： 「べつ」の読みもあるが、「べち」が一般的。『日葡』では bet, bechi と両方の見出しがある。

13 御主<sup>おんあるじ</sup>のアンジョ、ジョゼフ<sup>ゆめ</sup>の夢に  
見え来<sup>み き</sup>たって、宣<sup>のたま</sup>いけるは、「起き上<sup>お あ</sup>  
がり、若君<sup>わかぎみ</sup>と御母<sup>おんはわ</sup>を具<sup>ぐ</sup>し奉<sup>たてまつ</sup>り、エヂッ  
トへ逃<sup>のが</sup>るべし。我<sup>われ</sup>、告<sup>つ</sup>げんまで、その  
所<sup>ところ</sup>に居<sup>い</sup>らるべし。その故<sup>ゆえ</sup>は、エロデス  
若君<sup>わかぎみ</sup>を殺<sup>ころ</sup>し奉<sup>たてまつ</sup>らんために、尋<sup>たず</sup>ねければ  
なり」。

14 ジョゼフ<sup>すなわ</sup>即ち夜中<sup>やちゆう</sup>に出<sup>い</sup>で、若君<sup>わかぎみ</sup>と  
御母<sup>おんはわ</sup>を具<sup>ぐ</sup>し奉<sup>たてまつ</sup>り、エヂット<sup>ゆ</sup>へ行き、

15 エロデス<sup>さいご</sup>の最期<sup>ごさいごく</sup>まで御在<sup>ござい</sup>国<sup>こく</sup>し給<sup>たま</sup>う  
なり。これデウス、プロヘエタ<sup>とん</sup>をもつ  
て「我が子<sup>わ こ</sup>をエヂット<sup>よ</sup>より呼びける」  
と告<sup>つ</sup>げ給<sup>たま</sup>いしことを遂<sup>とん</sup>げさせられんた  
めなり。

16 されば、エロデス<sup>さんにな</sup>三人<sup>こくし</sup>の国司<sup>こくし</sup>より

13 占星術の学者たちが帰って行くと、  
主の天使が夢でヨセフに現れて言った。  
「起きて、子どもとその母親を連れて、  
エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、  
そこにとどまっていなさい。ヘロデが、  
この子を探し出して殺そうとしている。」

14 ヨセフは起きて、夜のうちに幼子  
とその母を連れてエジプトへ去り、

15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。そ  
れは、「わたしは、エジプトからわた  
しの子を呼び出した」と、主が預言者  
を通して言われていたことが実現する  
ためであった。

16 さて、ヘロデは占星術の学者たち  
にだまされたと知って、大いに怒った。

なぶ ころえ おお いか  
 翻られけると心得て、大きに怒りをな  
 し、国司に尋ねける時分を思い合わせ、  
 べツレンを先としてその外の近郷まで  
 に さい わらんべ たず ころ  
 二歳よりうちの童を尋ね殺さるなり。  
 17-18 ここをもって、イレミヤス・ポ  
 ロヘエタ、『ラマと言える所に、大き  
 に泣き叫ぶ声聞こゆれば、ラケル、我  
 が子のうえに泣き叫ばると言えども、  
 子なきによって宥めらるることを望ま  
 ざる』と書かれけるポロヘシヤを遂げ  
 たち 給うなり。

そして、人を送り、学者たちに確かめ  
 ておいた時期に基づいて、ベツレヘム  
 とその周辺一帯にいた二歳以下の男の  
 子を、一人残らず殺させた。

17 こうして、預言者エレミヤを通し  
 て言われていたことが実現した。

18 「ラマで声が聞こえた。激しく嘆き  
 悲しむ声だ。ラケルは子供たちのこと  
 で泣き、慰めてもらおうともしない、  
 子供たちがもういないから。」

Dos Sanctos Innocentes (罪なき聖嬰兒等) p.8v

13 Von-aruji no anjo, Joseph no yume ni miye quitatte notamay-queru ua, "Voqui-agari, vacaguimi to von-faua vo guxi-tatemaccuri, Ægipto ye nogaru bexi. Vare ccunguen made, sono tocoro ni yraru bexi; sono yuye va Herodes vacaguimi vo coroxi-tatemaccuran tame ni tazune-quereba nari". 14 Joseph sunauachi yachu ni ide, vacaguimi to von faua vo guxi-tatemaccuri, Ægipto ye yuqui 15 Herodes no saigo made go-zaycoco xitamo nari. Core Deus profeta vo motte 'Vaga co vo Ægipto yori yobi-queru' to ccugue-tamayxi coto vo tōgue-saxeraren tame nari. 16 Sareba, Herodes sannin no cocuxi (teiuo) yori naburare (anazuri, anadori)-queru to cocoroyete, voqui ni ycaro ni naxi, cocuxi ni \*tazxune-queru \*jebun vo vomoy-auaxe, \*Betlen uo saqui toxite sono foca no quingo made nisay yori vchi no varanbe (xōji, chisay co) vo tazzune corosa-ruru nari. 17-18 Coco vo motte Hieremias profeta 'Rama to yyeru tocoro ni voquini naqui-saquebu coye quicoyure ba, Rachel vaga co no uye vo naqui-saqueba-ruru to yyedomo, co naqui ni yotte nadame-raruru coto vo \*nosomazaru' to cacare-queru profecia uo togue-tamo nari.

15 tōgue=tongue; 16 \*tazxune=tazune/ tazzune; \*jebun=jibun; \*Betlen=Betlem; 17-18 \*nosomazaru=nozomazaru;

1 3 アンジョ： 「天使」(葡 anjo)。

具し： 「一緒に連れて行く」(『日葡』)

エヂット： エジプト (葡 Egito, 伯 Egypto)。書記法は古い形がブラジルのポルトガル語に残っているが、16世紀当時すでに p は発音されていなかった可能性がある。

1 5 告げ： ローマ字表記に ccungue(13) と ccugue(15) がある。有声破裂音の前に鼻音が付加することがしばしばある。『日葡』には tcungue はない。

遂げ： ローマ字表記は o に「アクセント符号」がついているように見える。一応、tilde として取り扱った。17-18節には togue の形も見られる。[toge], [toŋe], [toŋje], [toŋge] のいずれかで発音されていたのであろう。ただ、togue が tōgue の誤記の可能性もある。

16 尋ね： ローマ字表記に tazune(13) と tazzone(16) がある。元来は「ツ」は zzu のはずであるが、これらが混用されているということは、発音そのものが近づいていることを示している。

近郷： 『キ研』では quingo と読み、「近所」を採用しているが、文字の形としては、むしろ quingo に近いように思われるし、意味からも「近郷」（「近くの、または、隣の在所や村落」『日葡』）が好ましいと判断した。

童： ローマ字表記は varanbe となっている。『日葡』では、見出しとして varabe, varambe の両方が挙げられている。欄外注に xôji があり、『キ研』は『小児』としているが、『日葡』では xôni はあるが、xôji はない。

17 ポロヘシヤ： 預言（葡 profecia、羅 prophetia）。

イレミヤス： ローマ字表記 Hieremias。古くは、ラテン語などで Ie は Hie と書かれた。Hierusalem → Jerusalem、Hieronymus → Jerome。これは、[h] を表す独立した文字をもたないギリシア語に起源がある。

## 4 章

1 ゼズス、天<sup>てんぐ</sup>狗<sup>かなび</sup>に金<sup>たま</sup>引かれ給わんため、スピリト・サントよりデゼルトに導<sup>みちび</sup>かれ給い、

2 四十<sup>しじゅうにち</sup>日の余<sup>よ</sup>日<sup>ひ</sup>、御断食<sup>ごだんじき</sup>あつて終<sup>お</sup>わりの日<sup>ひ</sup>、食物<sup>しょくぶつ</sup>を欲<sup>ほ</sup>しく思<sup>おも</sup>ひ召<sup>め</sup>せば、

3 天狗<sup>てんぐ</sup>、御傍<sup>おんそば</sup>に近<sup>ちか</sup>づき奉<sup>たてま</sup>り、「御身<sup>おんみ</sup>デウス・ヒイリヨにてましまさば、この石<sup>いし</sup>パンになるように仰<sup>おほ</sup>せつけられよ」と申しければ、

4 ゼズス「人間<sup>にんげん</sup>は一命<sup>いちめい</sup>を過<sup>す</sup>ぐるこ、パンばかりにあらず、唯<sup>ただ</sup>デウスの御口<sup>みくち</sup>より出<sup>い</sup>で給<sup>たま</sup>う御言葉<sup>みことば</sup>をもつて生<sup>い</sup>くる」と答<sup>こた</sup>え給<sup>たち</sup>う。

5 その時<sup>とき</sup>天狗<sup>てんぐ</sup>、尊<sup>たつと</sup>き在所<sup>ざいしょ</sup>のテンポロの高<sup>たか</sup>きところへ召<sup>め</sup>し具<sup>ぐ</sup>し奉<sup>たてまつ</sup>り、

6 「デウス・ヒイリヨにてましますに

1 さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて荒れ野に行かれた。

2 そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。

3 すると誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」

4 イエスはお答えになった。『「人はパンだけで生きるのではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と書いてある。』

5 次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、

6 言った。「神の子なら、飛び降りた

おいては、これより下<sup>した</sup>に御身<sup>おんみ</sup>を落<sup>お</sup>とし  
給<sup>たま</sup>え。その故<sup>ゆえ</sup>は、『自然<sup>しぜん</sup>、御足<sup>みあし</sup>、石<sup>いし</sup>に  
触<sup>さわ</sup>りて損<sup>そん</sup>ぜぬように、手<sup>て</sup>に取り<sup>と</sup>上げ、  
御身<sup>おんみ</sup>について御身<sup>おんみ</sup>のアンジョ<sup>おおつ</sup>に仰<sup>おほ</sup>せ付<sup>つ</sup>  
け給<sup>たま</sup>う』と、スキリツウラに見<sup>み</sup>えたり』  
と申しければ、

7 ゼズス 『また我が御主<sup>わ おんあるじ</sup>デウスを当<sup>あ</sup>  
たりて見<sup>み</sup>べからず』とスキリツウラに  
現<sup>あらわ</sup>れたり』と宣<sup>のたま</sup>えば、

8 天狗<sup>てんぐ</sup>、重ねて如何<sup>いか</sup>にも高<sup>たか</sup>き山<sup>やま</sup>にゼ  
ズス連<sup>つ</sup>れ申し、世界<sup>せかい</sup>の諸<sup>しよ</sup>国<sup>こく</sup>またそのゴ  
ラウリヤを御目<sup>おめ</sup>に掛<sup>か</sup>け申し上げけるは、  
9 「ひれ伏<sup>ふ</sup>して我<sup>われ</sup>を礼<sup>らい</sup>拝<sup>はい</sup>し給<sup>たま</sup>わば、こ  
れらのこと<sup>みなことごと</sup>を皆<sup>あた</sup>悉<sup>もう</sup>く与<sup>も</sup>ゆべし』と申し  
ければ、

10 ゼズス 「いかに、サタナス、そこ  
を立<sup>た</sup>ち退<sup>の</sup>け。『我が御主<sup>わ おんあるじ</sup>デウス御<sup>ご</sup>一<sup>いつ</sup>体<sup>たい</sup>  
を拝<sup>おが</sup>み、それのみに奉<sup>ほう</sup>公<sup>こう</sup>し奉<sup>たてまつ</sup>るべし』  
とスキリツウラに見<sup>み</sup>えたり』と宣<sup>のたま</sup>えば、

11 天狗<sup>てんぐ</sup>、ゼズスの御前<sup>おんまえ</sup>を立<sup>た</sup>ち退<sup>の</sup>きて、  
数多<sup>あまた</sup>のアンジョ<sup>ちか</sup>近<sup>ちか</sup>づき奉<sup>たてまつ</sup>り、宮<sup>みや</sup>仕<sup>やづか</sup>われ  
けるなり。

らどうだ。『神<sup>かみ</sup>があなたのために天使<sup>てんし</sup>  
たちに命<sup>いのち</sup>じると、あなたの足<sup>あし</sup>が石<sup>いし</sup>に打<sup>う</sup>  
ち当たることのないように、天使<sup>てんし</sup>たち  
は手<sup>て</sup>であなたを支<sup>さ</sup>える』と書いてある。』

7 イエスは、『『あなたの神<sup>かみ</sup>である主<sup>しゅ</sup>  
を試<sup>こ</sup>しては

ならない』とも書いてある』と言<sup>い</sup>われ  
た。

8 更に、悪魔<sup>あくま</sup>はイエスを非常に高<sup>たか</sup>い  
山<sup>やま</sup>に連れて行き、世<sup>よ</sup>のすべての国<sup>くに</sup>々と  
その繁栄<sup>はんえい</sup>ぶりを見<sup>み</sup>せて、

9 「もし、ひれ伏<sup>ふ</sup>してわたしを拝<sup>はい</sup>むな  
ら、これをみんな与<sup>も</sup>えよう』と言<sup>い</sup>った。

10 すると、イエスは言<sup>い</sup>われた。「退<sup>の</sup>け、  
サタン。『あなたの神<sup>かみ</sup>である主<sup>しゅ</sup>を拝<sup>はい</sup>み、  
ただ主<sup>しゅ</sup>に仕<sup>つか</sup>えよ』と書いてある。』

11 そこで、悪魔<sup>あくま</sup>は離<sup>はな</sup>れ去<sup>さ</sup>った。する  
と、天使<sup>てんし</sup>たちが来<sup>き</sup>てイエスに仕<sup>つか</sup>えた。

Dominica prima quadrages (四旬節の第一の主日) p.17v

1 JESVS tengu ni canabicare-tamauan tame ni, Spirito Sancto yori deserto ni michibicare-tamay, 2  
xijunichi no yofi go-danjiqui atte voari no fi, xoqubut vo foxiqu voboximexeba, 3 tengu von-soba ni  
chicazzuqui-tatemaccury, "Von-mi Deus filho nite maximasaba, cono yxi pan ni naru yoni \*voxetayque-  
rareyo" to moxi-quereba, 4 JESVS "Ninguen va ichimey vo suguru coto pñ bacari ni arazu, tada Deus  
no mi-cuchi yori ide-tamo mi-cotoba vo motte yquru." to cotaye-tamo. 5 Sono toqui tengu tattoqui zayxo  
no templo no tacaqui tocoro ye \*mexiguixi-tatemaccuri, 6 "Deus filho nite maximasu ni voyte ua, core  
yori xita ni von-mi vo votoxi-tamaye. Sono yuye ua, 'Xijen mi-axi yxi ni sauarite sonjinu yoni, te ni  
toriage \*vo-mi ni ccuete vō-mi no anjo ni voxecque-tamo' to scriptura ni miyetari" to moxi-quereba,

7 JESVS "'Mata vaga \*vo-Aruji Deus vo atarite mi-becarazu' to scriptura ni arauari tari." to notamayeba,  
 8 tengu \*cassanete ycanimo tacaqui yama ni JESVS ccure-\*moxe, xecay no xococu mata sono gloria vo  
 vo-me ni caque, moxiague-queru ua, 9 "Firefixite vare vo rayfay xi-tamauba, corera no coto vo mina  
 cotogotocu atayu-bexi' to moxi-queraba, 10 JESVS "Ycani, Satanas! Soco vo tachi-noque! Vaga vō-Aruji  
 Deus go-yttay vo vogami, sore nomi ni foco xi-tatemaccuru-bexi' to scriptura ni miyetari" to notamayeba,  
 11 tengu JESVS no \*vo-maye vo tachinoquite, amata no anjo chicanzuqui tate-maccuri, mia-zzucauare  
 queru nari.

3 \*voxtayque=voxeccuque; 4 pān=pan; 5 \*mexiguixi=mexiguxi; 6 \*vo-mi=von-mi; 7 vo-Aruji=von-Aruji;

8 \*cassanete=casanete; \*moxe=mose; 10 vō-Aruji=von-Aruji; 11 vo-maye=von-maye;

1 天狗： 「天の狗、悪魔」『日葡』。

金引かれ： 「人の心中をさぐってみる、あるいは、試してみる。元来は刀を試してみること」  
 『日葡』 canabiqi には、十が付せられており、当時すでにあまり一般的な言葉ではなかったことが知ら  
 れる。『日本国語大辞典』にはバレット写本のこの例が引用されている。

スピリト・サント： （葡 Espirito Santo、羅 Spiritus Sanctus）聖なる霊、聖霊。ローマ字はラテン  
 語表記に合わせているが、発音はポルトガル式。

デゼルト： （葡 deserto、羅 deserta）、砂漠、荒れ野

2 デウス・ヒイリヨ： （葡 Filho de Deus、羅 Dei Filius）、「神の子」、キリストを表す。

3 仰せつけられよ： ローマ字表記は voxetayquerareyo とあるが、voxeccuquerareyo の誤記と考える。

4 選る： 最もよい物を選ぶ（『日葡』）。『キ研』では「過ぐる」とある。

デウス： （葡、羅 Deus）、「神」。キリシタンは、当初神を「大日」と呼んだが、仏教の一派とい  
 う誤解を受けたため、Deus を借用して、そのまま使うことにした。

5 在所： 「ある人が住んでいる所、あるいは今いる所」（『日葡』）、「尊き在所」で「尊い場所」、す  
 なわち「聖都」を表す。

テンポロ： （葡 templo、羅 templum）、「神殿」。

召し具し： ローマ字表記は mexigixi とあるが、mexiguxi の誤記と考える。

6 自然（しぜん）： 「もし、ひょっとして」の意。名詞の「自然」は「ジネン」と読む。ローマ字  
 で xijen とあることから、[iʒen] と読まれていたことが分かる。序参照。

6 節には、「御身」が3回使われており、ローマ字ではいずれも違った書き方をしているが（vonmi,  
 vōmi, vomい）、書き損じかそうでないかは分からない。しかし「おみ」はないので、すべて「おんみ」  
 と考える。

7 スキリツウラ： （葡 Escritura、羅 scriptura）、「聖書」。

8 グラウリヤ： （葡、羅 gloria）、「栄光」。

10 サタナス： （葡、羅 satanas）、「サタン、悪魔」。

11 近づき： ローマ字 chicanzuqui。3 節は chicazuqui。「ん」の付加と同時に「ず」「づ」の混用が  
 ある。

宮仕われ： ローマ字で miyazzucauare と zz が使われているということは、「づ」を意識している。

18 ゼズス、ガリレアの入海<sup>いりうみ なんぎさ す</sup>の渚<sup>す</sup>を過ぎ<sup>たま</sup>給<sup>たま</sup>い、ペドロと名付け<sup>なづ</sup>らるるシモンとその舎兄<sup>しゃきょう</sup>アンドレ<sup>きょうだいにんぎょじん</sup>、兄弟二人漁人<sup>ごらん</sup>なるによって、網<sup>あみ</sup>を下ろさるるを御覧<sup>お</sup>あつて、

19 「我が跡<sup>わ</sup>を慕<sup>あと</sup>い来<sup>きた</sup>たられよ。人間<sup>にんげん</sup>の漁師<sup>りょうし</sup>となさん」と宣<sup>のたま</sup>え、

20 即ち網<sup>すなわ</sup>を棄<sup>あみ</sup>て、御跡<sup>す</sup>を参<sup>おんあと</sup>られけるなり。

21 ゼズス、それより先<sup>さき</sup>へ行き過ぎ<sup>い</sup>給<sup>す</sup>うに、今二人<sup>いま にん</sup>の兄弟<sup>きょうだい</sup>ゼベデオのジャコベとその舎弟<sup>しゃてい</sup>ジョアン、舟<sup>ふね</sup>に親<sup>おや</sup>のゼベデオともに我が網<sup>あみ</sup>の破<sup>やぶ</sup>れたるを補<sup>おぎな</sup>わるるを御覧<sup>ごらん</sup>あつて、召<sup>め</sup>しければ

22 二人共<sup>に</sup>に即ち親<sup>にんとも</sup>と網<sup>すなわ</sup>を棄<sup>おや</sup>て、御跡<sup>あみ</sup>に参<sup>おんあと</sup>られけるなり。

18 イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。

19 イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。

20 二人はすぐに網を捨てて従った。

21 そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。

22 この二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った。

Euangelhos proprios dos Sanctos (使徒アンドレアの祝日) p.84

18 IESVS Galilea no yriumi no nãguisa (qiu) vo sugui-tamai, Pedro to nazzuque-raruru Simon to sono xaquio Andre quioday ninin guiojin naru ni yotte, ami uo vorosa-ruru uo goran atte, 19 "Vaga ato uo xitay quita-rare yo, ningen no reoxi to nasan" to notamaye ba, 20 sunauachi ami uo sute, vō-ato vo may-rare-queru nari. 21 IESVS sore yori saqui ye yqui-sugui-tamo ni, ima ninin no quioday Zebedeo no Jacobe to sono \*xutei João fune ni voya (chichi) no Zebedeo tomo ni vaga ami uo yaburetaru vo voguinaua-ruru vo goran atte mexi-quere ba, 22 ninin tomo ni sunauachi voya to ami vo sute, von-ato ni may-rare-queru nari.

18 nãguisa=nanguisa; 20 vō-ato=von-ato; 21 \*xutei=xatei

1 8 名付け: ローマ字 nazzuque (なづけ)。5 章 1 9 節には nanzuquru がある。

舎兄: 「年上の兄弟」(子の上)『日葡』

漁人: 「漁どる人」『日葡』

2 1 舎弟(しゃてい): ローマ字表記は \*xutei となっているが、xatei の誤記と考える。

## 5 章

1 ゼズス、<sup>ばんみん</sup>万民を御覧<sup>ごらん</sup>あって、<sup>こうざん</sup>高山  
によじ登り、御安座<sup>のぼ</sup>し給うところに、

ヂシポロ<sup>ちか</sup>近く参ら<sup>まい</sup>ければ、

2 御口<sup>みくち</sup>を開き御教化<sup>ひら</sup>し給わ<sup>ごきょうけ</sup>く、

3 「スピリト<sup>ひんじゃ</sup>の貧者は天<sup>てん</sup>の国<sup>くに</sup>を持つ<sup>も</sup>つに  
よってベアトなり。

5 柔和<sup>じゅうわ</sup>なる者は地<sup>もの</sup>を進退<sup>ち</sup>するによっ  
てベアトなり。

4 涙<sup>なみだ</sup>を流<sup>なが</sup>す者は宥<sup>もの</sup>め給<sup>なだ</sup>うべきによっ  
てベアトなり。

6 ジュスチイサの飢渴<sup>きかつ</sup>を忍<sup>しの</sup>ぶ者は  
活計<sup>かつけい</sup>をもって養<sup>やしな</sup>い給<sup>たま</sup>うべければ、ベア  
トなり。

7 慈悲<sup>じひ</sup>ある者は御慈悲<sup>もの</sup>を蒙<sup>おんじひ</sup>るべきによ  
ってベアトなり。

8 心浄<sup>こころきよ</sup>き者はデウス<sup>もの</sup>を見奉<sup>みたまつ</sup>るべきに  
よってベアトなり。

9 無事<sup>ぶじ</sup>ある者はデウス<sup>もの</sup>の御子<sup>おんこ</sup>と呼ば  
るべきによってベアトなり。

10 ジュスチイシヤを育<sup>そだ</sup>てんため、  
辛劳<sup>しんろう</sup>を忍<sup>しの</sup>ぶ者、天<sup>もの</sup>の国<sup>てん</sup>を進退<sup>くに</sup>するによっ  
てベアトなり。

11 我<sup>われ</sup>に対して他人<sup>たにん</sup>より悪口<sup>あつこうざんげん</sup>讒言<sup>ざんげん</sup>、そ  
の他<sup>ほか</sup>、禍<sup>わざわい</sup>をなすと言<sup>ゆ</sup>うとも、堪忍<sup>かんにん</sup>する  
者はベアトたるべし。

12 汝<sup>なんだち</sup>達の返報<sup>へんぼう</sup>、天<sup>てん</sup>において莫大<sup>ばくだい</sup>なれ  
ば、強<sup>つよ</sup>き喜<sup>よろこ</sup>びの心<sup>こころ</sup>をもって楽<sup>たの</sup>しまるべ

1 イエスはこの群集を見て、山に登  
られた。腰を下ろされると、弟子たち  
が近くに寄って来た。

2 そこで、イエスは口を開き、教え  
られた。

3 「心の貧しい人々は、幸いである、  
天の国はその人たちのものである。

4 悲しむ人々は幸いである、その人  
たちは慰められる。

5 柔和な人々は、幸いである、その  
人たちは地を受け継ぐ。

6 義に飢え渴く人々は、幸いである、  
その人たちは満たされる。

7 憐れみ深い人々は、幸いである、  
その人たちは憐れみを受ける。

8 心の清い人々は、幸いである、そ  
の人たちは神を見る。

9 平和を実現する人々は、幸いであ  
る、その人たちは神の子と呼ばれる。

10 義のために迫害される人々は幸い  
である、天の国はその人たちのもので  
ある。

11 わたしのためにののしられ、迫害  
され、身に覚えのないことであらゆる  
悪口を浴びせられるとき、あなたがた  
は幸いである。

12 喜びなさい。大いに喜びなさい。

し」<sup>のたま</sup>と宣うなり。

天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」

In festo omnium Sanctorum Sanct. (諸聖人の大の祝日) p.94

1 IESVS banmin vo goran atte, \*cozzā ni yoji-nobori, go-anza (xicato yru) xi-tamo tocoro ni, discipolo chicacu mayrare-quereba, 2 mi-cuchi uo firaqui go-quioque xi-tamauaqu. 3 "Spirito no finja ua ten no cuni uo moccu ni yotte beato nari. 5 \*Niua-naru mono ua chi (jji) uo xinday-suru ni yotte beato nari. 4 Namida uo nagasu mono ua nadame-tamo bequi ni yotte, beato nari. 6 Iustiça no quiquat (caccuye) uo xinobu mono ua \*quaqey uo motte yaxinay-tamo-bequereba, beato nari. 7 Iifi aru mono ua von-jifi uo comuru-bequi ni yotte B° nari. 8 Cocoro quioqui mono ua Deus uo mi-tatemaccuru-bequi ni yotte beato nari. 9 Buji aru mono ua Deus no vō-co to yobaru-bequi ni yotte beato nari. 10 Iusticia uo sodaten tame xinro (xincu) uo xinobu mono ten no cuni uo \*xiday-suru ni yotte B° nari. 11 Vare ni tayxite tanin yori acco zanguen sono foca uazauay (say) uo nasu to yu tomo \*canin suru mono ua B° taru-bexi. 12 nādachi no fempo ten ni uoyte bacuday nareba, ccuyoqui yorocobi no cocoro uo motte tanoximaru-bexi" to notamo nari.

1 \*cozzā=cōzan; 5 \*niua=niuua; 6 \*quaqey=quacqey; 7,10,11 B°=beato; 9 vō-co=von-co; 10 \*xiday-suru=xinday-suru; 11 \*canin=cannin; 12 nādachi=nandachi;

4節、5節の入れ替えがあるが、これは、間違いではなく、ラテン語聖書では、ギリシア語原典とは異なっており、この順番になっているからである。

1 高山： ローマ字 cozzan, cozan の誤記であり、「ざ」の読み [za], [dza] の二種があったことを窺わせる。

安座： 「気楽にくつろいで座っていること」『日葡』

デシポロ： 葡 discipulo, 羅 discipulus 「弟子」。

教化： ローマ字 qioque, 『日葡』 qeōqe, 「善徳、あるいは、救霊の事についての忠告、または、教訓」『日葡』

3 スピリト： 葡 espirito, 羅 spiritus 「霊」

5 柔和： ローマ字 niua (『日葡』 nhūua) とあるが、これは「にうわ」(niuua) の誤記と考える。

ベアト： 葡 beato, 羅 beatus, 「祝福された、幸福な」。B°と省略されることがある。

5 進退する： 「国を所有して、自分の意のままに統治する」『日葡』

6 ジュスティサ： justia, 「正しいこと、正義」

飢渴： ローマ字 quiquat, 『日葡』では qicat, 「飢え渴く」『日葡』

活計： ローマ字表記は quaqey で、quacqey の誤記と考える。「安楽な暮らしと気晴らしを楽しむこと」『日葡』

9 無事： 「平和、静穏」『日葡』

10 ジュスティシャ： →ジュスティサ

1 1 堪忍： ローマ字表記 canin は cannin あるいは cānin の誤記。

13 ゼズス、ヂシポロに<sup>のたま</sup>宣<sup>なんだち</sup>わく「汝<sup>つち</sup>達<sup>しお</sup>は土の塩なり。もしその塩<sup>しお</sup>、性<sup>しょう</sup>を失<sup>うしの</sup>う  
においては、何<sup>なに</sup>を<sup>つ</sup>か付<sup>お</sup>くべきぞ。その  
時<sup>とき</sup>、塩<sup>しお</sup>の益<sup>えき</sup>あるべからず、忽<sup>たちま</sup>ち外<sup>ほか</sup>に捨<sup>す</sup>  
てられ、人間<sup>にんげん</sup>の踏<sup>ふ</sup>み物<sup>もの</sup>となるべし。

14 汝<sup>なんだち</sup>達<sup>せ</sup>は世界<sup>かい</sup>の光明<sup>こうみょう</sup>なり。山<sup>やま</sup>の上<sup>うえ</sup>の  
家<sup>いえ</sup>村<sup>むら</sup>は隠<sup>かく</sup>すこと叶<sup>かの</sup>うべからず。

15 灯<sup>ひ</sup>をと<sup>う</sup>もすこと、器<sup>うつ</sup>物<sup>もの</sup>を覆<sup>お</sup>わんた  
めにあらず。家<sup>け</sup>内<sup>ない</sup>の闇<sup>やみ</sup>を照<sup>て</sup>らすべきた  
め灯<sup>とう</sup>台<sup>だい</sup>の上<sup>うえ</sup>に置<sup>お</sup>くものなり。

16 その如<sup>ごと</sup>く、汝<sup>なんだち</sup>達<sup>こうみょう</sup>の光<sup>しょう</sup>明<sup>みん</sup>を諸<sup>まへ</sup>人<sup>にん</sup>の前<sup>まえ</sup>  
に輝<sup>かが</sup>くべし。汝<sup>なんだち</sup>達<sup>よ</sup>の良<sup>ぎょう</sup>き行<sup>ぎ</sup>儀<sup>ぎ</sup>を見<sup>み</sup>るた  
め、また天<sup>てん</sup>にまします汝<sup>なんだち</sup>達<sup>おん</sup>の御<sup>おん</sup>親<sup>おや</sup>を敬<sup>うや</sup>ま  
い奉<sup>たてまつ</sup>るためなり」。

17 「然<sup>しか</sup>ば、われ御<sup>おん</sup>掟<sup>おきて</sup>、ポロヘイタ  
のこ<sup>そむ</sup>を背<sup>きた</sup>くた<sup>おも</sup>めに来<sup>き</sup>ると思<sup>おも</sup>わるべか  
らず。必<sup>かな</sup>ず御<sup>おん</sup>掟<sup>おきて</sup>を背<sup>きた</sup>くた<sup>き</sup>めに来<sup>き</sup>たらず、  
遂<sup>と</sup>げんた<sup>きた</sup>めに来<sup>き</sup>るなり。

18 実<sup>じつ</sup>に言<sup>ゆ</sup>うなり。たとい天地<sup>てんち</sup>は破<sup>は</sup>滅<sup>めつ</sup>  
すともある程<sup>ほど</sup>のこ<sup>たつ</sup>を達<sup>きわ</sup>せん際<sup>さい</sup>まで、  
御<sup>おん</sup>掟<sup>おきて</sup>に現<sup>あらわ</sup>ること一<sup>いっ</sup>点<sup>てん</sup>も違<sup>たが</sup>うべからず。

19 されば御<sup>ご</sup>掟<sup>おきて</sup>の中<sup>なか</sup>、一<sup>ひと</sup>つ<sup>しょうさい</sup>の詳<sup>やぶ</sup>細<sup>さい</sup>を破<sup>やぶ</sup>  
り、その如<sup>ごと</sup>く教<sup>おし</sup>ゆる輩<sup>とも</sup>は天<sup>てん</sup>の国<sup>くに</sup>にて小<sup>ちい</sup>  
さきと名<sup>な</sup>付<sup>お</sup>くるなり。保<sup>たも</sup>ち教<sup>おし</sup>ゆる人<sup>ひと</sup>は  
天<sup>てん</sup>の国<sup>くに</sup>にて大<sup>おほ</sup>きなると名<sup>な</sup>付<sup>お</sup>く」と宣<sup>のたま</sup>う  
なり。

13 「あなたがたは地の塩である。だ  
が、塩に塩気がなくなれば、その塩は  
何によって塩味が付けられよう。もは  
や、何の役にも立たず、外に投げ捨て  
られ、人々に踏みつけられるだけであ  
る。

14 あなたがたは世の光である。山の  
上にある町は、隠れることができない。

15 また、ともし火をともして升の下  
に置く者はいない。燭台の上に置く。  
そうすれば、家の中のものすべてを照  
らすのである。

16 そのように、あなたがたの光を人々  
の前に輝かしなさい。人々が、あなた  
がたの立派な行いを見て、あなたがた  
の天の父をあがめるようになるため  
である。」

17 「わたしが来たのは律法や預言者  
を廃止するためだ、と思っではならな  
い。廃止するためではなく、完成する  
ためである。

18 はっきり言うておく。すべてのこ  
とが実現し、天地が消えうせるまで、  
律法の文字から一点一画も消え去るこ  
とはない。

19 だから、これらの最も小さな掟を  
一つでも破り、そうするようにと人に  
教える者は、天の国で最も小さい者と

呼ばれる。しかし、それを守り、そう  
するように教える者は、天の国でだい  
なる者と呼ばれる。

In Festo Ecclesia no yottari no Doctor (四人の聖会博士の祝日) p.98

13 JESVS discipolo ni notamauaqu, "Nandachi \*no ccuchi no xiuo nari. Moxi sono xiuo xō vo vxino ni uojte ua, nani uoca ccuqu-bequi zo? Sono toqui xiuo no yequi aru-becarazu, tachimachi focani suturare, ninguen no fumimono to naru-bexi. 14 Nandachi ua xecay no quōmeō nari. Yama no vye no iye-mura ua cacussu coto cano-becarazu. 15 Fi uo tomosu coto vccuua-mono uo vōuan tame ni arazu. quenay no yami uo terasu-bequi tame, today no vye ni voqu mono nari. 16 Sono gotocu nādachi no quōmeō vo xonin no maye ni cacayaqu-bexi. Nandachi no yoqui guiōgui uo miru tame, mata ten ni maximasu nandachi no von-voya vo vyamay-tatemaccuru tame nari. 17 Xicareba, vare von-voquite, profeta no coto uo somuqu tame ni quitaru to uomouaru-becarazu. Canarazu vō-voquite uo somuqu tame ni quitarazu, toguen tame ni quitaru nari. 18 Jit ni yu nari. tatoy tenchi ua famet su tomo arufodo no coto uo taxxen quiaua made von-voquite ni arauaruru coto yttē mo tagō-becarazu. 19 Sareba go-voquite no vchi fitoccu no xōsay uo yaburi, sonogotoqu voxiyuru tomogara ua ten no cuni nite chisaqui to nāzuquru nari, tamochi voxiyuru fito ua ten no cuni nite vōqui naru to nāzuquru" to notamo nari.

13 \*no=uo; 16 nādachi=nandachi; 18 vō-voquite=von-voquite; nāzuquru=nanzuquru;

1 3 汝達を： ローマ字表記は nandachi no とあるが、nandachi uo の誤記と考える。もっとも、uo と no の区別はしにくい。同様のミスは多いと思われる。

性： Xō 「物の本性、または、効能」。(性の抜けた)「すでに実質の少なくなったもの。たとえば、気の抜けた葡萄酒とか椰子酒) とかなど」(『日葡』)

1 6 輝く： ローマ字 cacayaqu. 「かかやく」が一般的発音。ここでは、「輝かすべし」のように他動詞とすべき。

行儀： 「生活のしかた、あるいは、所行」(『日葡』)。

1 9 詳細： 『キ研』では「小斎」となっているが、小斎とは、「カトリック教会で、キリストの苦難をしのぶために定めた、肉食をしない日」のことであって、ここでは当たらない。「細かいことまで」という意味で「詳細」とした。

20 ゼズス、ヂシポロに<sup>のたま</sup>宣わく、  
「<sup>なんだち</sup>汝達のジュスチイサ、ハリゼオとス  
キリバのジュスチイサに<sup>すぐ</sup>勝れずんば、  
<sup>でん</sup>天の国に<sup>くに</sup>到ることあるべからず」。

21 「<sup>むかし</sup>昔の人に<sup>ひと</sup>授けられしを<sup>さす</sup>聞かれけ  
<sup>ごと</sup>る如く、<sup>ひと</sup>『人を<sup>ころ</sup>殺すべからず。<sup>ころ</sup>殺すに

20 言っておくが、あなたがたの義が  
律法学者やファリサイ派の人々の義に  
まさっていなければ、あなたがたは決  
して天の国に入ることができない。」

21 「あなたがたも聞いているとおり、  
昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁

おいては、ジュイゾに付せらるべし』  
と現るなり。

22 然りと雖も汝達に言うなり。兄弟  
に対して怒りをなす者は、糺さるる  
人数たるべし。兄弟に対して『ラチイ  
ヤ』と言うべき者は詮議に乗るべし。  
『愚癡なり』と言ひ掛くべき者はイン  
ヘルノの苦しみに付せらるべし。

23-24 アルタルに物を捧げん時、兄弟  
に対して遺恨ありと思わば、先ず捧げ  
物をアルタルの前に置いて入魂して後  
に捧ぐべしと宣うなり。

きを受ける』と命じられている。

22 しかし、わたしは言っておく。兄  
弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受  
ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最  
高法院に引き渡され、『愚か者』と言  
う者は、火の地獄に投げ込まれる。

23 だから、あなたがたが祭壇に供え  
物を献げようとし、兄弟が自分に反感  
を持っているのをそこで思い出したな  
ら、

24 その供え物を祭壇の前に置き、ま  
ず行って兄弟と仲直りをし、それから  
帰って来て、供え物を献げなさい。

Dominica quinta post Pent. (聖霊御降臨後第五の主日) p.32v

20 JESVS discipolo ni notamauaqu "Nādachi no iustica Phariseo to scriba no iustica ni sugurezūba ten  
no cuni ni itaru coto aru-becarazu. 21 Mucaxi no fito ni sazzuque-rarexi uo quicare-queru gotocu 'Fito  
vo corosu-becarazu. Corosu ni uoyte va, juizo ni fuxeraru-bexi' to araua-ruru nari. 22 Xicari to yyedomo,  
nādachi ni yu nari. Quoiday ni \*taxite yecari vo nasu mono va tadasa-ruru nīju taru-bexi. Quoiday ni taxite  
'Racha' to yu-bequi mono va, xengui (danco) ni noru-bexi. 'Guchi nari' to yui caqu-bequi mono ua, inferno  
no curuximi ni fuxeraru-bexi. 23-24 Altar ni mono vo sasanguen toqui, quoiday ni \*taxite ycon ari to  
vomouaba, mazu sasague-mono vo altar no maye ni uoyte, \*juccon (nacanavori, iugan) xite nochi ni sasagu-  
bexi" to notamo nari.

20,22 nādachi=nā/dachi; 20 \*iustica=justiça; iustica=justiça; sugurezūba=sugurezu/uba; 22 nīju=nizju;

22,23-24 \*taxite=taixite; \*juccon=juccon;

20 ハリゼオ：「ファリサイ人」

21 ジュイゾ：（葡juizo）「裁き、裁判所」

22 対して：ローマ字表記は taxite であるが、taixite の誤記と考える。

ラチイヤ：（羅 raca）。希原典 raka が羅語に引き継がれた言葉であるが、ここで一回しか用いら  
れておらず、語源については不明であるが、アラム語の「空っぽ」を表す reqan から来たのではないかと  
考えられている（織田）

インヘルノ：（葡 inferno）、「地獄」、（キリシタンは死後の世界を paraíso（パライズ）「天国」、  
purgatorio（ブルガトリオ）「煉獄」、inferno（インヘルノ）「地獄」と考えていた。『キ研』の注に inferno  
nono と二重表記の誤記であるかのように書かれているが、これは、ページが変わるときに、前ページ

の最後の単語を次ページの最初に重ねて書くというごく一般的な当時の習慣から生じたことであり、誤記ではない。

23 アルタル：（葡 altar）、「祭壇」

献げん：ローマ字表記では sasanguen（ささんげん）。23 に sasague-mono がある。

愚癡：「無知」（『日葡』）

言い掛く：「何事を人に科する、人に話をしかけて或ることを申し入れる」（『日葡』）

入魂：「入魂」は『キ研』にしたがったが、ローマ字表記では Juuon あるいは、せいぜい Juccon としか見えない。従って、Juccon を採り、Jucon の誤記と考える。「入魂」は「熟魂」とも書き、「人と  
の親密な友情、および、交わり」（『日葡』）。注に（入眼（じゅがん）して）とあり、「入眼」は『日葡』  
で「熟魂」に同じ、とある。

43 ゼズス御弟子に宣わく、『『ポロシ  
モを大切に思い、敵を憎むべし』と  
古人の言いけることを聞きつなり。

44 さりながら我、汝等<sup>われ なんじら しめ</sup>に示すなり。  
自ら敵を親しく思い、我を憎む者に善<sup>みずか てき した おも われ にく もの ぜん</sup>  
を施すべし。<sup>ほどこ</sup>

45 天にまします汝達<sup>てん なんだち おんおや おん み</sup>が御親、御身の  
日輪<sup>にちりん ぜんあくにん うえ い</sup>、善悪人の上に出だされ、また  
罪人に<sup>ざいにん す ひと うえ うろ めぐ</sup>直ぐなる人の上に雨露の恵みを  
与え給えば、その御子<sup>あた たま おん こ たてまつ</sup>になり奉るため  
に、汝に敵をなし、また汝を譏る者の<sup>なんじ てき なんじ そし もの</sup>  
ために、オラシヨ<sup>いた</sup>を致すべし。

46 汝を至切に思う人<sup>なんじ しいせつ おも ひと われ おも</sup>を我も思わば、  
何の返報をか給わるべきや。悪人もか  
くの如く<sup>ごと おも</sup>思いをなせり。

47 汝等<sup>なんじら きやうだい れい</sup>、兄弟にのみ礼をなすこと  
ばくだい<sup>い</sup>いな、ゼンチヨもこの儀を  
なせり。

48 然る間、天に在す汝等<sup>しか あいだ てん ましま なんじら おんおや</sup>が御親、  
諸善<sup>しよぜん たつ</sup>を達すべし。

43 「あなたがたも聞いているとおり、  
『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられ  
ている。

44 しかし、わたしは言うておく、敵  
を愛し、自分を迫害する者のために祈  
りなさい。

45 あなたがたの天の父の子となるた  
めである。父は悪人にも善人にも太陽  
を昇らせ、正しい者にも正しくない者  
にも雨を降らせてくださるからである。

46 自分を愛してくれる人を愛したと  
ころで、あなたがたにどんな報いがあ  
ろうか。徴税人でも、同じことをして  
いるではないか。

47 自分の兄弟にだけ挨拶したところ  
で、どんな優れたことをしたことにな  
ろうか。異邦人でさえ、同じことをし  
ているではないか。

48 だから、あなたがたの天の父が完  
全であられるように、あなたがたも完  
全な者となりなさい。」

四句節第一の金曜日の日課は6章4節までがひと続きになっているので、ローマ字表記と注は6章4節の後にまとめて記載する。

## 6 章

1 外見<sup>がいけん</sup>の誉れ<sup>ほま</sup>を借らん<sup>か</sup>がため、人前<sup>にんぜん</sup>において善事<sup>ぜんじ</sup>をなすことなかれ。件<sup>くだん</sup>の如く<sup>ごと</sup>致す<sup>いた</sup>においては、天<sup>てん</sup>に在す<sup>まし</sup>汝等<sup>なんじら</sup>、御親<sup>おんおや</sup>よりその返報<sup>へんぼう</sup>を給<sup>たま</sup>わることあるべからず。

2 されば、汝等<sup>なんじら</sup>、慈悲<sup>じひ</sup>を致<sup>いた</sup>す時<sup>とき</sup>、名利<sup>みょうり</sup>の誉れ<sup>むさぼ</sup>を貪<sup>むさぼ</sup>って、シナゴウガ所<sup>ところ</sup>において致<sup>いた</sup>しける如く<sup>ごと</sup>、我が前<sup>わ</sup>にて貝<sup>まい</sup>を吹<sup>ふ</sup>くべからず。汝達<sup>なんだち</sup>に実<sup>じつ</sup>に示<sup>しめ</sup>すなり。その返報<sup>へんぼう</sup>は現世<sup>げんせ</sup>において蒙<sup>こうむ</sup>るなり。

3-4 汝等<sup>なんじら</sup>、密か<sup>ひそ</sup>に慈悲<sup>じひ</sup>を傍ら<sup>かたわ</sup>にて致<sup>いた</sup>し、汝<sup>なんじ</sup>が御親<sup>おくおや</sup>、密か<sup>ひそ</sup>に照覧<sup>しょうらん</sup>あつて、その報恩<sup>ほうおん</sup>を給<sup>たま</sup>わ<sup>る</sup>ために、慈悲<sup>じひ</sup>を致<sup>いた</sup>さば、右<sup>みぎ</sup>の手<sup>て</sup>にて勤む<sup>つと</sup>ることを、左<sup>ひだり</sup>の手<sup>て</sup>にもし<sup>し</sup>知ら<sup>のたま</sup>すべからず」<sup>のたま</sup>と宣<sup>のたま</sup>うなり。

1 見てもうらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい。さもないと、あなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる。

2 だから、あなたは施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。はっきりあなたがたに言うておく。彼らは既に報いを受けている。

3 施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。

4 あなたの施しを人目につかせないためである。そうすれば、隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる。」

As sextas ferias da Foresma, Primejra (四句節中の金曜日、第一の金曜日) p.52

5/43 IESVS mindexi ni notamauacu "'Proximo uo taxyet ni uomoy, tequi uo nicumu-bexi' to cojin no iy-queru coto uo quiqui-ccuru nari. 44 Sarinagara vare nājjiira ni ximesu nari. Mizzucara tequi uo xitaxicu vomoy, vare uo nicumu mono ni jen uo fodocosu-bexi. 45 Ten ni maximasu nandachi ga von-voya von-mi no nichiri, jē-acuñ no vye ni ydasare, mata zainin to sugunaru fito no vye ni vro no megumi uo atayeta-mayeba, sono von-co ni nari-tatemaccuru tame ni, nājji ni tequi uo naxi, mata \*naji uo soxiru mono no tame ni oratio uo itasu-bexi. 46 Nanji uo xijxet (taixet) ni uomo fito uo vare mo vomouaba, nan no fempō uoca tamauaru-bequi ya? Acuñ mo caqu no gotocu vomoy uo naxeri. 47 \*Najjira quidai ni nomi rei vo nasu coto baqutay nari ya yna ya? Jencio mo cono gui uo naxeri. 48 Xicar ayda ten ni

maximasu \*nájjra ga von-voya xojen uo tassu-bexi". 6/1 Guayquen no fomare uo carã ga tame ninjen ni uoyte jenji uo nasu coto nacare. Cudan no gotocu itasu ni uoyte ua ten ni maximasu \*nájjira von-voya yori sono fempo uo tamauaru coto aru-becarazu. 2 Sareba \*nájjira jifi vo itasu toqui, meori no fomare uo mussabotte, sinagoga tocoro ni uoyte itaxiqueru gotocu, vaga maye nite cay uo fucu becarazu. Nádachi ni jitni ximesu nari, sono fempo ua guense ni uoyte comuru nari. 3-4 \*Nájjira fisocani jifi uo catauara nite itaxi, nájji ga vō-voya fisoca ni xoran atte, sono foðvon vo tamauaru tame ni, \*xifi uo itasaba, migui no te nite ecutomuru coto uo fidari no te ni mo xirasu-becarazu" to notamo nari.

44 nájjira=nanjjira; 45 nichirĩ=nichirin; jẽ-acuñĩ=jẽn-acunin; nájji=nanjji; \*nájji=nanjji; 46 Acuñĩ=Acunin;

47 \*Nájjira=Nanjjira; 48 \*nájjra=nanjjira; 1 carã=caran; najjira=nanjjira; 2 najjira=nanjjira; 3-4 najjira=nanjjira

3-4 vō-voya=von-voya; \*xifi=jifi;

4 3 ボロシモ： 葡 proximo、「隣人」

4 5 オラショ： 葡 oraço、羅 oratio 「祈り」

4 6 至切： 「大きくて深い愛情」（『日葡』）、xixetは xinxet（親切）「強い親愛の情と好意」（『日葡』）の誤記とも考えられる。

4 7 ゼンチョ： 葡 gentio 「異教徒」

2 名利： 「偽善あるいは名誉欲と、利益の追求あるいは貪欲と」（『日葡』）

貝を吹く： 「法螺貝を吹き鳴らす」（『日葡』）

シナゴウガ： 葡 sinagoga、伯 synagoga、「ユダヤ教の会堂」

9 『天に在す我等が御親、御名を尊  
とまれ給え、

10 御代、来たり給え、天において思  
し召すまなる如く、地においてもあ  
らせ給え。

11 我等が日々の御養いを、今日我等  
に与え給え。

12 我等、人に赦し申す如く、我等が  
咎を赦し給え。

13 我等をテンタサンに放し給うこと  
なかれ。我等を凶悪よりのがし給え。  
アーメン』。

9 『天におられるわたしたちの父よ、  
御名が崇められますように。

10 御国が来ますように。御心が行わ  
れますように、天におけるように地の  
上にも。

11 わたしたちに必要な糧を今日与え  
てください。

12 わたしたちの負い目を赦してくだ  
さい、わたしたちも自分に負い目のあ  
る人を許しましたように。

13 わたしたちを誘惑に遭わせず、悪  
い者から救ってください。』

この部分は、「ドチリナ・キリシタン」(Doctrina Christa)oより引用

"Ten ni maximasu varera ga von-voya, mi-na uo tatomare-tamaye. 10 Mi-yo qitari-tamaye. Ten ni voite uoboximesu mama naru gotoqu, chi ni voite mo araxe-tamaye. 11 Varera ga nichinichi no von-yaxinai uo connichi varera ni ataye-tamaye. 12 Varera fito ni yuruxi-mōso gotoqu, varera ga toga uo yuruxi-tamaye. 13 Varera uo fetaçan ni fanaxi-tamō coto nacare. Varera uo qeoacu yori nogaxi-tamaye. Amen.

この祈りは、パアテル・ノステル(Pater noster)と呼ばれ、最も重要な祈りとして唱えられてきた。一般にプロテスタント教会で唱えられる「国と力と栄えとは永久に汝のものなればなり」は後世の付加であって、ギリシア語原典の古い写本やラテン語にはない。このパアテル・ノステルは大切な祈りとして、隠れキリシタンの間でも伝えられてきたが、かなり変形している。どちらかと言えば、原文に近い形を一つ例として上げる。

「天にましますわれらが御親、みなみわたまいたい。みにきといたもう。天においてはおぼしめすままなると、じにおいては、あらせたもう。われら日々の御養い今日われらに与えたもう。われら人に許しもうすごと、われら人に許し申すごと。われらテントウに放したもうことなかにきょうより悪をぬがし給うこと。アメンゼウス。

13 テンタサン： 葡(tentação)(羅tentatio、英語temptationのpは後に付加されたもの)。「誘惑、試練」

凶悪： 「罪科や刑罰に当たる悪」(『日葡』)

13 アーメン： 「真実」を表すヘブル語に発し、ギリシア語、ラテン語を通じ、世界に広まった言葉の一つ。祈りの終わりに、祈りの真実性と有効性を信じて付け加えるのが一般的である。

16 ゼズス、<sup>のたま</sup>ヂシポロに宣わく、  
「<sup>なんだち</sup>汝達、<sup>いた</sup>ゼジュンを<sup>とき</sup>致さん時、<sup>みょうもんじん</sup>名聞人  
<sup>ふぜい</sup>の風情をなさじ、その故は<sup>ゆえ</sup>ゼジュンを  
<sup>いた</sup>致すと人に<sup>ひと</sup>知れんために、<sup>し</sup>必ず<sup>かなら</sup>顔色を  
<sup>へん</sup>変ずるなり。実に言う、その返報を<sup>う</sup>受  
けけるなり。

17-18 <sup>なんだち</sup>汝達ゼジュンを<sup>いた</sup>致す時、<sup>たに</sup>他人に  
<sup>あらわ</sup>これを<sup>あらわ</sup>顕さず、ただ<sup>もくぜん</sup>目前に見え給わぬ  
<sup>かみ</sup>デウス・パアデレに<sup>あらわ</sup>顕し申すため、<sup>も</sup>髪  
<sup>くすり</sup>に<sup>ぬ</sup>葉を<sup>かお</sup>塗り、<sup>あら</sup>顔を<sup>しか</sup>洗うべし。然るにお  
<sup>おんおや</sup>いては、<sup>むくぜん</sup>目前に<sup>あらわ</sup>現れざるところに<sup>まし</sup>在す  
<sup>ごらん</sup>御親、<sup>へんぼう</sup>御覧あって、<sup>くんだ</sup>その返報を下さる  
べし」。

16「断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。はっきり言うておく。彼らは既に報いを受けている。

17 あなたは、断食するとき、頭に油をつけ、顔を洗いなさい。

18 それは、あなたの断食が人に気づかれず、隠れたところにおられるあなたの父に見ていただくためである。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたお父が報いてくださる。」

19 「あるいは朽<sup>く</sup>ち、あるいは虫<sup>むし</sup>食<sup>は</sup>み、  
あるいは盗賊<sup>とうぞく</sup>に奪<sup>うば</sup>い取<sup>と</sup>らるる宝<sup>たから</sup>を土<sup>つち</sup>に  
集<sup>あつ</sup>め置<sup>お</sup>くべからず。

20 ただ朽<sup>く</sup>ち、腐<sup>くさ</sup>ることなく、虫<sup>むし</sup>食<sup>は</sup>む  
こともなく、盗賊<sup>とうぞく</sup>の掘<sup>ほ</sup>り出<sup>い</sup>だし奪<sup>うば</sup>い取<sup>と</sup>  
ることなき、天<sup>てん</sup>の国<sup>くに</sup>に蓄<sup>たくわ</sup>え置<sup>お</sup>くべし。

21 その故<sup>ゆえ</sup>は必ず宝<sup>かなら</sup>ある所<sup>たから</sup>に、心<sup>こころ</sup>留<sup>とど</sup>ま  
るものなり」と宣<sup>のたま</sup>うなり。

19 「あなたがたは地上に富を積んで  
はならない。そこでは、虫が食ったり、  
さび付いたりするし、また、盗人が忍  
び込んで盗み出したりする。

20 富は、天に積みなさい。そこでは、  
虫が食うことも、さび付くこともなく、  
また、盗人が忍び込むことも盗み出す  
こともない。

21 あなたの富のあるところに、あな  
たの心もあるのだ。」

Feria quarta Cineris Sanct. (灰の水曜日) p.46

16 IESVS discipolo ni notamauaqu, "Nādachi jeĩũ vo ytasen toqui meōmonjin no fujei (mimochi) uo nasaji. Sono yuye va, jeĩũ uo itasu to fito ni xiren tame ni canarazu gāxoqu vo fenzuru nari. Jit ni yu sono fempo vo uque-queru nari. 17-18 Nandachi jeĩũ vo itasu toqui, tanin ni core vo arauasazu, tada moqujen (me no maye) ni miye-tamauanu D's. Pe. ni aruaxi-mosu tame, cami ni cusuri uo nuri, cauo vo aro-bexi. Xicaruni uoyte va mocujen ni arauare-zaru tocoro ni maximasu von-voya goran atte, sono fempō qūdasaru bexi." 19 "Aruj ua cuchi (cusari), aruj ua muxi fami, aruj ua tōzoqu (nusubito) ni vbay tora-ruru tacara vo ccuchi ni accume voqu-becarazu, 20 tada cuchi, qusaru coto naqu, muxi famu coto mo naqu, tōzoqu no fori idaxi, ubay-toru coto naqui, ten no cuni ni tacuuaye (tabay)-voqu-bexi. 21 Sono yuye ua canarazu tacara aru tocoro ni cocoro todomaru mono nari" to notamo nari.

16 jeĩũ=jeiun=jejun; gāxoqu=gānxoqu; 17-18 D's. Ps.=Deus Padre; qūdasaru=qūdasaru;

16 ゼジュン： 葡 jejum、「断食、絶食」（『日葡』）

名聞人： 『日葡』 miōmonjin、「偽善者」（『日葡』）。

風情： 「格好、あるいは、様子」（『日葡』）

24 ゼズス、ヂシポロに宣<sup>のたま</sup>わく、「二<sup>に</sup>  
人<sup>にん</sup>の主<sup>あるじ</sup>に仕<sup>つか</sup>えがたし。その故<sup>ゆえ</sup>は一人<sup>いちにん</sup>を  
大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>に思<sup>おも</sup>えば、一人<sup>いちにん</sup>を憎<sup>にく</sup>み、一人<sup>いちにん</sup>を重<sup>おも</sup>  
んずれば一人<sup>いちにん</sup>を軽<sup>かろ</sup>んずるなり。デウス  
と非道<sup>ひどう</sup>の宝<sup>たから</sup>に仕<sup>つか</sup>わるること叶<sup>かの</sup>うべから  
ず」。

25 「汝<sup>なんだち</sup>達<sup>いちめい</sup>の一<sup>つ</sup>命<sup>しよくぶつ</sup>を継<sup>はだえ</sup>ぐべき食物<sup>じよくぶつ</sup>と膚<sup>はだえ</sup>

24 「だれも、二人の主人に仕えるこ  
とはできない。一方を憎んで他方を愛  
するか、一方に親しんで他方を軽んじ  
るか、どちらかである。あなたがたは、  
神と富とに仕えることはできない。」

25 「だから、言っておく。自分の命  
のことで何を食べようか何を飲もうか

かく いる い こころ もち  
を隠すべき衣類に心を用ゆべからず。  
しょくぶつ まさ いしやう  
食物よりもアニマは優らざるや。衣裳  
よりもしきたい すぐ  
色体はなお勝れざるや。

そら か ちやうらい み たね  
26 空を翔ける鳥類を見られよ。種を  
ま み と ごこく あつ  
蒔き、実を取り、五穀を集めおくこと  
なしといえども、てん ましま なんだち おんおや  
天に在す汝達の御親  
より恵み、めぐ やしな たち ちやうらい  
養い給うなり。鳥類よりも  
なんだち こうじやう  
汝達は高上ならざるや。

わ たけ つん おも  
27 我が丈を継ぎたく思うというとも  
かの  
叶うべきや。

なに ゆえ いしよく うえ こころ つ  
28 何の故にか、衣食の上に心を尽く  
さんや さ はな み  
さんや。山野に咲く花を見られよ。  
しだい お た いえど はたもの もち  
次第に生い立つと雖も、機物を用い  
しんく し あん  
辛苦することなきを思案せらるべし。

なんだち ゆ だいきさ  
29 汝達に言うなり。サロモン大盛ん  
なりしとき いしやう ちゃく  
なりし時も、かほどの衣裳を着せられ  
ず。

こんにち みやうにち たきぎ  
30 されば、今日あって明日は薪とな  
さんや そうもく き たち  
る山野の草木さえデウスより着せ給う  
に、いかにヒイデスなき輩、いかでか  
なんじら あた たま  
汝等になお与え給わざらんや。

ごと とき なに ぶく  
31 かくの如くある時は何をか服し、  
なに ちゃく なんげ  
何をか着せんということに歎くべから  
ず。

たぐ たず  
32 ゼンチヨはこの類いを尋ぬるなり。  
なんだち もち し  
汝達のために用ゆべきことデウス知ろ  
し召されければ、

だいいち おんくに なら  
33 第一にデウスの御国、並びにジュ  
スチヤを尋ねば、みぎ のぞ そ たち  
右の望みは添え給う  
べし」と言うなり。

と、また自分の体のことで何を着よう  
かと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大  
切であり、体は衣服よりも大切ではな  
いか。

26 空の鳥をよく見なさい。種も蒔か  
ず、刈り入れもせず、倉に納めもしな  
い。だが、あなたがたの天の父は鳥を  
養ってくださる。あなたがたは、鳥よ  
りも価値あるものではないか。

27 あなたがたのうちだれが、思い悩  
んだからといって、寿命をわずかでも  
延ばすことができようか。

28 なぜ、衣服のことで思い悩むのか。  
野の花がどのように育つのか、注意し  
て見なさい。働きもせず、紡ぎもしな  
い。

29 しかし、言っておく、栄華を極め  
たソロモンでさえ、この花の一つほど  
にも着飾ってはいなかった。

30 今日が生えていて、明日は炉に投  
げ込まれる野の草でさえ、神はこのよ  
うに装ってくださる。まして、あなた  
がたにはなおされのことではないか、  
信仰の薄い者たちよ。

31 だから、『何を食べようか』『何を  
飲もうか』『何を着ようか』と言って、  
思い悩むな。

32 それはみな、異邦人が切に求めて  
いるものだ。あなたがたの天の父は、  
これらのものがみなあなたがたに必要

なことをご存じである。

33 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。

Dominica xiiij post Pent. (聖霊御降臨後第十四の主日) p.37

24 IESVS discipolo ni notamauacu, "Ninin no aruji ni ccucaye gataxi. Sono yuye ua ichinin vo tajxet ni vomoyeba [ichini vo nicumi, ichini vo vomōzzureba ichini uo caruqusuru nari], ichinin uo carozuru nari. D's to fidō no tacara ni ccucua-ruru coto canō-becarazu. 25 Nandachi no ichimei uo ccugu (ccuзуqu)-bequi xoqubut to, fadaye vo cacusu-bequi yru (yx) ni cocoro vo mochiyu (ccuco)-becarazu. Xoqubut yori mo anima ua masarazaru ya? Yxo yori mo xiquitay ua navo sugurezaru ya? 26 Sora vo caqueru (tobi) choruj vo mirare yo, tane uo maqui, mi uo tori, gocoqu vo accume-voqu coto naxi to yedomo, ten ni maximasu nandachi no vō-voya yori megumi yaxinay tamo nari. Choruj yori mo \*nadachi ua \*cōnjō (tacay yye) narazaru ya? 27 Vaga taque (xei) vo ccūgui-taqu vomo to yu tomo cano-bequi ya? 28 Nani no yuye nica? yxocu no uye ni cocoro vo ccuqusan ya? \*Sānya (no) ni saqu fana uo mirare yo. Xidai ni voytaccuto yedomo fata mono vo mochij, xinqu suru coto naqui uo xian seraru-bexi. 29 \*Nadachi ni yu nari. Salomon day-sacan narixi toqui mo, cafodo no yxo uo chaqu-xerarezu. 30 Sareba connichi atte miōnichi ua taquigui to naru sanya no sōmoqu saye Deus yori quixe-tamo ni, ycani fides naqui tomogara! Icadea \*nadjira ni navo ataye-tamaua-zaran ya? 31 Caquno gotocu aru toqui va nani voca bucuxi,(nani uoca) chacuxen to yu coto ni nāguequ-becarazu. 32 Gentio ua cono tagui vo tazunuru nari. Nandachi no tame ni mochiyu (aru fodo no)-beqi coto, Deus xiroximesare-quereba, 33 daiychi ni Deus no von-quni, narabi ni iustia uo tazuneba, migui no nozomi ua soye-tamo-bexi." to notamo nari.

24 D's=Deus; 26 vō-voya=von-voya; \*nadachi=nandachi \*cōnjō=cōjō; 27 ccūgui=ccungui; \*sānya=sanya;

29 \*nadachi=nandachi; 30 \*nadjira=nanjjira; 31 nāguequ=nanguequ;

24 [ ] は、欄外注であり、原則的に原文に抜けている部分の追加であるが、結果的に、caruqusuru と carozuru が重複している。従って、和本文では欄外注の「軽くする」の部分を除き、ローマ本文の「軽んずる」を生かした。

24 非道：「道理に外れたこと、または、不正・不義」(『日葡』)

25 アニマ：羅 anima (葡 vida)、「生命」

色体：「肉体」(『日葡』)

30 ヒイデス：羅 fides (葡 fe!)、「信仰」

32 ゼンチョ：葡 gentio、「[キリスト教から見た]異教徒」

33 ジュスチャ：「ジュスチシヤ」か。justia は羅語、葡語いずれにもない。

## 7 章

15 ゼズス、ヂシポロに<sup>のたま</sup>宣わく、「オ  
ベリヤの皮<sup>かわ</sup>を着<sup>き</sup>て、内心<sup>ないしん</sup>は狼<sup>おおかめ</sup>なる虚名<sup>きよめい</sup>  
のポロヘイタ<sup>ようじん</sup>を用心<sup>しん</sup>すべし。

16 されば、その仕業<sup>しわざ</sup>をもつて見せら  
るるべし。もし棘<sup>いばら</sup>より葡萄<sup>ぶどう</sup>を取り、げ  
ずより柿<sup>かき</sup>を取るべきや。

17 良<sup>よ</sup>き木<sup>き</sup>には良<sup>よ</sup>き実<sup>み</sup>を生<sup>しょう</sup>じ、悪<sup>あ</sup>しき  
木<sup>き</sup>には悪<sup>あ</sup>しき実<sup>み</sup>を生<sup>しょう</sup>ずるなり。

18 その故<sup>ゆえ</sup>は、良<sup>よ</sup>き木<sup>き</sup>に悪<sup>あ</sup>しき実<sup>み</sup>生<sup>な</sup>ら  
ず、悪<sup>あ</sup>しき木<sup>き</sup>には良<sup>よ</sup>き実<sup>み</sup>生<sup>な</sup>ること叶<sup>かな</sup>わ  
ざるなり。

19 良<sup>よ</sup>き実<sup>み</sup>生<sup>な</sup>らざる木<sup>き</sup>は伐<sup>き</sup>りて焚<sup>た</sup>くべ  
し。

20 かるが故<sup>な</sup>に、生<sup>な</sup>りける実<sup>み</sup>をもつて、  
その人<sup>ひと</sup>を見知<sup>み</sup>らるべし。

21 「我<sup>われ</sup>を『主<sup>あるじ</sup>、主<sup>あるじ</sup>』と云<sup>ゆ</sup>うばかりの  
者<sup>もの</sup>は、天<sup>てん</sup>の国<sup>くに</sup>に到<sup>いた</sup>るべからず。ただ、  
天<sup>てん</sup>に在<sup>ま</sup>し我<sup>われ</sup>が親<sup>おや</sup>の言葉<sup>ことば</sup>を保<sup>た</sup>つ者<sup>もの</sup>こそ天<sup>てん</sup>  
の国<sup>くに</sup>に到<sup>いた</sup>るべけれ」と宣<sup>のたま</sup>うなり。

15 「偽<sup>いつはり</sup>預言者<sup>よげんしや</sup>を警戒<sup>けいけい</sup>しなさい。彼ら  
は羊<sup>ひつじ</sup>の皮<sup>かわ</sup>を身<sup>み</sup>にま<sup>ま</sup>とつてあなた<sup>あなた</sup>がたの  
ところ<sup>ところ</sup>に来<sup>き</sup>るが、その内側<sup>うちがは</sup>は貪欲<sup>こんよく</sup>な狼<sup>おおかめ</sup>  
である。

16 あなたがたは、その実<sup>み</sup>で彼ら<sup>かれら</sup>を見  
分<sup>わ</sup>ける。茨<sup>いばら</sup>からぶどう<sup>ぶどう</sup>が、あざみから  
いちじく<sup>いちじく</sup>が採<sup>と</sup>れるだろうか。

17 すべて良<sup>よ</sup>い木<sup>き</sup>は良<sup>よ</sup>い実<sup>み</sup>を結<sup>むす</sup>び、悪<sup>あ</sup>  
い木<sup>き</sup>は悪<sup>あ</sup>い実<sup>み</sup>を結<sup>むす</sup>ぶ。

18 良<sup>よ</sup>い木<sup>き</sup>が悪<sup>あ</sup>い実<sup>み</sup>を結<sup>むす</sup>ぶことはなく、  
また、悪<sup>あ</sup>い木<sup>き</sup>が良<sup>よ</sup>い実<sup>み</sup>を結<sup>むす</sup>ぶこともで  
きない。

19 良<sup>よ</sup>い実<sup>み</sup>を結<sup>むす</sup>ばない木<sup>き</sup>はみな、切り  
倒<sup>たふ</sup>されて火<sup>ひ</sup>に投<sup>な</sup>げ込まれる。

20 このよう<sup>よう</sup>に、あなた<sup>あなた</sup>がたはその実<sup>み</sup>  
で彼ら<sup>かれら</sup>を見分<sup>わ</sup>ける。」

21 「わたしに向<sup>むか</sup>つて、『主<sup>あるじ</sup>よ、主<sup>あるじ</sup>よ』  
と云<sup>い</sup>う者が皆<sup>みな</sup>、天<sup>てん</sup>の国<sup>くに</sup>に入<sup>い</sup>るわけでは  
ない。わたし<sup>わたし</sup>の天<sup>てん</sup>の父<sup>ちち</sup>の御心<sup>みこころ</sup>を行<sup>い</sup>う者  
だけが入<sup>い</sup>るのである。

Dominica septima post Pent. (聖霊御降臨後第七の主日) p.33v

15 JESVS discipolo ni notamauaqu, "Ouelha no caua vo quite naixin ua vōcame naru quiomej no  
profeta vo yoji subexi. 16 Sareba sono xiuaza vo motte mixe-raruru-bexi. Moxi ybara yori budo vo tori,  
guezu yori caqui vo toru bequi ya! 17 Yoqui qui niua yoqui mi vo xoji, axiqui qui niua axiqui mi vo  
xozuru nari. 18 Sono yuye va yoqui qui ni axiqui mi narazu, axiqui qui niua yoqui mi naru coto  
canauazaru nari. 19 Yoqui mi nara-zaru qui ua quirite taqu (yaqu)-bexi. 20 Caruga yuye ni nari-queru  
mi vo motte sono fito vo mi-xiraru-bexi." 21 "Vare vo 'Aruji, aruji!' to yu bacari no mono ua, ten no

cuni ni ytaru becarazu. Tada ten ni maximasu vaga voya no cotoba vo tamoccu mono \*cosso ten no cuni ni ytaru-bequere." to notamo nari.

15 yoji =yojin; \*cosso=coso;

15 オペリヤ： 葡ovelha、「羊」発音は[woberija]と思われる。

虚名： 「虚偽の証言」(『日葡』)

16 げず： 「カラタチ」の異名。現在も方言として使われる。

柿： 「林檎に似ている日本の無花果」(『日葡』)、なお、『日葡』に「なお、ロドリゲスの日本教会史によれば、わが国の干し柿が南欧の無花果に似ているので、最初のポルトガル人たちが柿を figo と呼んだのであろう・・・」という注がある

## 8 章

1 ゼズス<sup>やま</sup>山より下り給<sup>くだ</sup>えば、諸<sup>たま</sup>人御<sup>しよにんおん</sup>後<sup>あと</sup>より参<sup>まい</sup>り集<sup>つど</sup>う。

2 その時<sup>とき</sup>、癩<sup>らいびょう</sup>病受<sup>おんあるじ</sup>けたる者<sup>もの</sup>一人御<sup>いちにんおん</sup>傍<sup>そば</sup>近く参<sup>ちかまい</sup>り、「いかに御<sup>おん</sup>主<sup>しゅ</sup>、我<sup>われ</sup>を清<sup>きよ</sup>くなしたく思<sup>おも</sup>し召<sup>め</sup>すにおいては叶<sup>かな</sup>い給<sup>たま</sup>う」。

そう申<sup>もう</sup>しければ、  
3 ゼズス御<sup>おん</sup>手<sup>て</sup>を伸<sup>の</sup>べ給<sup>たま</sup>いて、か<sup>もの</sup>の者<sup>もの</sup>に負<sup>お</sup>わせ給<sup>たま</sup>いて、「望<sup>のぞ</sup>みなり、清<sup>きよ</sup>くなれ」、と宣<sup>のたま</sup>いける御<sup>み</sup>言<sup>こと</sup>葉<sup>は</sup>の下<sup>した</sup>より忽<sup>たちま</sup>ち平<sup>へい</sup>癒<sup>ゆ</sup>しけるなり。

4 ゼズス、「汝<sup>なんじ</sup>この事<sup>こと</sup>、他<sup>た</sup>に語<sup>かた</sup>らずしてサセルダウテにその身<sup>み</sup>を現<sup>あらわ</sup>し、モイゼス<sup>おきて</sup>の掟<sup>ごう</sup>の如<sup>ごと</sup>く証<sup>しょうこ</sup>拠<sup>き</sup>のために捧<sup>ささ</sup>げ物<sup>もの</sup>を奉<sup>たてまつ</sup>れ」と宣<sup>のたま</sup>い、カハルナウに入<sup>い</sup>り給<sup>たま</sup>う。

5 その時<sup>とき</sup>、センツウリヨ<sup>おんそばちか</sup>御<sup>まい</sup>傍<sup>そば</sup>近く参<sup>まい</sup>り、

6 「いかにドミネ、我<sup>わ</sup>が家<sup>いえ</sup>に中<sup>ちゅう</sup>風<sup>ふう</sup>を患<sup>わずら</sup>う者<sup>もの</sup>あり、病<sup>びよう</sup>苦<sup>く</sup>最<sup>も</sup>も耐<sup>た</sup>えがたし」と申<sup>もう</sup>されければ、

1 イエスが山を下りられると、大勢の群衆が従った。

2 すると、一人の重い皮膚病を患っている人がイエスに近寄り、ひれ伏して、「主よ、御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。

3 イエスが手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち、重い皮膚病は清くなった。

4 イエスはその人に言われた。「だれにも話さないように気をつけなさい。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めた供え物を献げて、人々に証明しなさい。」

5 さて、イエスがカファルナウムに入られると、一人の百人隊長が近づいて来て懇願し、

7 ゼズス「我行きて治せん」と言う。

8 センツウリョ「いかに、ドミネ、  
我が家に來たり給うべき功力には及び  
奉らず、ただ御言葉をかけ給わば、即  
ちその者、平癒いたすべし。

9 その故はわれ数輩の郎等の司とし  
て、我に従う兵どもは『駈けよ』と下  
知すれば、駈け、『引け』と下知すれ  
ば引き、『その事をなせ』と下知すれ  
ば、仕え奉る」と申しければ、

10 御感あって、御後より參る人々に  
対し給い、「真にイスラエルの中にか  
ほどのヒイデスを体する人を見ず。

11 我、汝達に言う、東西より諸人來  
たり、天の国にアバラン、イザク、ジャ  
コブともに住すべし。

12 然れども国の子は外の闇に落とさ  
れ、震いわななき、泣き悲しむべし」  
と宣い、

13 センツウリョに「ヒイデスに承け  
られける如く、その望み叶いければ、  
帰られよ」と言う折節、平癒いたしけ  
るなり。

6 「主よ、わたしの僕が中風で家に寝  
込んで、ひどく苦しんでいます」と言っ  
た。

7 そこでイエスは、「わたしが行って、  
いやしてあげよう」と言われた。

8 すると、百人隊長は答えた。「主よ、  
わたしはあなたを自分の屋根の下にお  
迎えできるような者ではありません。  
ただ、ひと言おっしゃってください。  
そうすれば、わたしの僕はいやされま  
す。

9 わたしも権威の下にある者ですが、  
わたしの下には兵隊がおり、一人に  
『行け』と言えは行きますし、他の一  
人に『来い』と言えは来ます。また、  
部下に『これをしろ』と言えは、その  
とおりにします。」

10 イエスはこれを聞いて感心し、従っ  
ていた人々に言われた。「はっきり言っ  
ておく。イスラエルの中でさえ、わた  
しはこれほどの信仰を見たことがない。

11 言うておくが、いつか、東や西か  
ら大勢の人が来て、天の国でアブラハ  
ム、イサク、ヤコブと共に宴会の席に  
着く。

12 だが、御国の子らは、外の暗闇に  
追い出される。そこで泣きわめいて歯  
ぎしりするだろう。」

13 そして、百人隊長に言われた。「帰  
りなさい。あなたが信じたとおりにな

るように。」ちょうどそのとき、僕の  
病気はいやされた。

Dominica 3a post Epifan. (御公現後の第三主日) p.12v

1 JESVS yama yori cudari tamayebe, xonin vō-ato yori majri cucudō. 2 Sono toqui raibeo vo vque-  
taru mono ichinin von-soba chicaqu mayri, "Ycani, vō-Aruji, vare vo quiyoqu naxi-taqu voboximesu ni  
uoyte va, canay tamo." So moxi-quereba, 3 JESVS vō-te vo nobe-tamayte cano mono ni vouaxe-tamayte,  
"Nozomi nari, quiyoqu nare." to notamay-queru mi-cotoba no xita yori tachimachi feiyu-xi-queru nari. 4  
JESVS "Nāiji cono coto vo ta ni catarazu xite, sacerdote ni sono mi vo arauaxi, Moyses no voquite no  
gotoku xōco no tame \*tame ni sasague-mono vo tatemaccure." to notamay, Cafarnaū ni iri-tamo. 5 Sono  
toqui centurio von-soba chicaqu mayri, 6 "Ycani, Domine, vaga yye ni chūbu vo vazurō mono ari, biocu  
(vazuray, curuximi) mottomo taye-gataxi." to mosare-quereba, 7 JESVS "Vare yuquite jjixen (nauoxi)."  
to notamo. 8 Senturio "Ycany, Domine, vaga yye ni quitari-tamo-bequi curiqui niua voyobi-  
tatemaccurazu, tada mi-cotoba vo caque-tamauba, sunauachi sono mono feyyu itasu-bexi. 9 Sono yuye  
va vare sufay no rōdō no \*ccucassa to xite, vare ni xitago ccuamono-domo ua 'Caquayo.' to guejji sureba,  
caque, 'Fique.' to guejji sureba, fiqui, 'Sono coto vo naxe.' to guejji-sureba, ccucamacuru", to moxi-quereba,  
10 guiocan atte (guiōten xite) \*von-atto yori mayru fitobito ni taixi-tamay, "Macoto ni Jsrael no naca ni  
cafodo no fides vo taysuru fito vo \*mizzu, 11 uare \*nadachi ni yu, tozay (nixi figaxi) yori xōñ quitari,  
ten no cuni ni Abraham, Jsac, Jacob tomo ni jjusu (sumi)-bexi. 12 Xicaredomo cuni no co va foca no  
yami ni voto-sare furuj uananaqui, naqui canaximu bexi." to notamay, 13 Centurio ni "Fides ni vque-  
rare-queru gotocu, sono \*nosomi canay-quereba, caye-rare yo." to notamo vorifuxi feyyu itaxi-queru nari.

1 vō-ato=von-ato; 2 vō-Aruji=von-Aruji; 3 vō-te=von-te; 4 nāiji=nanjji; delete \*tame; Cafarnaū=Cafarnaum;

9 \*ccucassa=ccucasa; 10 \*von-atto=von-ato; \*mizzu=mizu; 11 \*nadachi=nandachi; xōñ=xonin; 13 \*nosomi=nozomi;

2 癩病： 葡 leproso、差別語として現在は使われない。

3 平癒： 『日葡』ヘイユウ feiyū (平癒) と読ませている。「疵や病気などが治る」(『日葡』)

5 センツウリヨ： 葡 centurião、ローマ軍の「百人隊長」

8 功力： 「善果を受けるべき功」(『日葡』)

9 数輩： 「多くの人々」(『日葡』)

郎等： 「ある主君の臣下たる武士」(『日葡』)

下知する： 「命ずる、あるいは、命令を下す」(『日葡』)

10 御感： 「主君がその家来のした何事かについて満足し喜ぶこと、または、それを褒めること」  
(『日葡』)

11 アバラン、・・・： 葡 Abraão, Isaac e Jaco!、伯 Abrahão, Isaac e Jacob、羅 Abraham, et Isaac,  
et Iacob

23 <sup>おんふね め</sup>ゼズ御舟に召されければ、デシ 23 イエスが舟に乗り込まれると、弟

ポロも御後<sup>おんあと</sup>より参<sup>まい</sup>られけるところに  
 24 俄<sup>にわ</sup>かに風波<sup>ふうは</sup>起<sup>お</sup>こって、この舟<sup>ふね</sup>打ち<sup>う</sup>  
 返<sup>かえ</sup>さんとし、逆風<sup>ぎやくふう</sup>に吹<sup>ふ</sup>き向<sup>む</sup>こうなり。  
 ゼズス御睡眠<sup>ごすいみん</sup>ありけるに、  
 25 デシポロ御傍<sup>おんそば</sup>に参<sup>まい</sup>り驚<sup>おどろ</sup>かし奉<sup>たてまつ</sup>り、  
 「いかに、ドミネ、我等<sup>われら</sup>、既<sup>すで</sup>に死<sup>し</sup>する  
 に及<sup>およ</sup>びければ、助<sup>たす</sup>け給<sup>たま</sup>え」と申<sup>もう</sup>さるる  
 に、  
 26 ゼズス「いかに、ヒイデス弱<sup>よわ</sup>き輩<sup>ともがら</sup>、  
 何<sup>なに</sup>の故<sup>ゆえ</sup>に恐<sup>おそ</sup>れられけるぞ」とて起<sup>お</sup>き直<sup>なお</sup>  
 らし給<sup>たま</sup>い、風波<sup>ふうは</sup>に「静<sup>しず</sup>まれ」と宣<sup>のたま</sup>えば、  
 即<sup>すなわ</sup>ち穩<sup>おだ</sup>やかなり。  
 27 その時<sup>とき</sup>、人々<sup>ひとびと</sup>大<sup>おほ</sup>きに驚<sup>おどろ</sup>き、「かかる  
 風波<sup>ふうは</sup>までも御言<sup>みことば</sup>葉<sup>は</sup>に従<sup>したが</sup>い奉<sup>たてまつ</sup>るは、誰<sup>だれ</sup>  
 てましますぞ」。互<sup>たが</sup>いに申<sup>もう</sup>し合<sup>あ</sup>いける  
 なり。

子たちも従った。

24 そのとき、湖に激しい嵐が起こり、  
 舟は波にのまれそうになった。イエス  
 は眠っておられた。

25 弟子たちは近寄って起こし、「主よ、  
 助けてください。おぼれそうです」と  
 いった。

26 イエスは言われた。「なぜ怖がるの  
 か。信仰の薄い者たちよ。」そして、  
 起き上がって風と湖とをお叱りになる  
 と、すっかり風になった。

27 人々は驚いて、「いったい、この方  
 はどういう方なのだろう。風や湖さえ  
 も従うではないか」と言った。

Dominica quarta post Epifan. (御公現後の第四主日) p.13v

23 JESVS von-fune ni mesare-quereba, discipolo mo vō-ato yori mayrare-queru tocoro ni, 24 niuaca  
 ni fufa vocotte, cono fune \*uchi-cacusan to xi, guiacufu fitobito ni fuqui-muco nari. JESVS go-suimin-ari-  
 queru ni, 25 discipolo von-soba ni mayri, vodorocaxi-tatemaccurj, "Icani, Domine, varera sude ni xisuru  
 ni voyobi-quereba, tasuque-tamaye." to mosa-ruru ni, 26 IESVS "Ycani, fides youaqui tomogara, nani no  
 yuye ni vosorerare-queru zo?" \*totte voqui-navoraxi-tamay, fufa ni "Xizzumare." to notamayeba, sunauachi  
 vodayaca nari. 27 Sono toqui fitobito voquini vodoroqui, "Cacaru fufa made mo mi-cotoba ni xitagay-  
 tatemaccuru ua tare nite maximasu zo?" Tagay ni moxi-ay-queru nari.

23 vō-ato=von-ato; 24 \*uchi-cacusan=uchi-cayesan; 26 \*totte=tote;

24 打ち返さん：ローマ字表記は uchi-cacusan (打ち隠さん)、とあるが、cayesan が適当と考える。  
 『キ研』では、「打ち返さん」を採っている。打ち返す：「下から上へひっくり返す」(『日葡』)、「③ひっ  
 くりかえす」(新潮)

25 驚かし：「・・・また、眠っている人を目ざめさせる」(『日葡』)

次号に続く